

# 平成23年度 第1回倉吉市学校教育審議会

日 時 平成23年5月16日(月)午後3時～5時  
場 所 倉吉市役所 3階 第2会議室

## 日 程

### 1 開 会

(1) 開会あいさつ

### 2 事務局説明

(1) 本年度の審議内容について

「学校・学級の適正規模、校区のあり方についての検討」経緯

(2) 倉吉市学校教育の現状

### 3 協 議

(1) 学校・学級の適正規模、校区のあり方について

①切磋琢磨するのに適した集団について

②今後の審議の進め方について

(2) 高城小学校河来見分校について

### 4 その他

### 5 閉会

#### 【協議(1)資料】

資料1-1 「明日の倉吉を考える委員会提言」抜粋・・・・・・・・・・1

資料1-2 「倉吉市教育振興基本計画」より抜粋・・・・・・・・・・3

資料1-3 今後の児童・生徒数の推移・・・・・・・・・・5

資料1-4 倉吉市小学校区地図・・・・・・・・・・8

資料1-5 平成23年度倉吉市学校教育関係要覧(抜粋) [別添]

#### 【協議(2)資料】

資料2-1 倉吉市立高城小学校河来見分校のあり方について [別添]

「明日の倉吉を考える委員会提言」を倉吉市教育委員会へ答申

## 提言にあたって

### 明日の倉吉の教育を考える委員会

将来の倉吉市を背負う子どもたちに「生きる力」、「人間力」をつけていくことが重要との観点から、本市においては「確かな学力」「豊かな心とたくましい体」「地域に誇りと愛着をもつ子ども」の育成を重点として各校が特色ある学校づくりに努めている。

学校教育の第一の責務は「確かな学力」を身につけさせることにある。過去3年間の全国学力・学習状況調査の結果をみると、本市児童生徒の学力は全国と比べて高い水準を維持しており、各学校の取り組みが実を結んでいるといえる。同調査の質問紙調査によると、規範意識、他者との関係等の面では良い反応を示している。また、本市児童生徒の体力、運動能力は全国と比較しても決して遜色のない結果となっている。さらに、市内全小中学校がウェブページを開設し、児童生徒の活動状況や学校評価の結果等広く保護者や地域に情報発信をしており、開かれた学校づくりに向けた取り組みが推進されていることがわかる。

このように、本市学校教育のこれまでの営みが一定の成果をあげてきているものとする。その反面、本委員会では、

「就学前教育（幼稚園・保育園）と学校教育との連携がうまく図れ、一人一人が大切にされた接続がなされているのか。」

「価値観が多様化していく中で、家庭教育のあり方をどのように考え、保護者への働きかけをいかにしていくべきか。」

「5年後には小学校児童数が300名近く減少する中で、学力向上と健やかな成長を図る上で、学校・学級集団の規模が適正であるのか。」

など、本市学校教育が抱える課題が多岐にわたることも提起された。

これらの課題解決を進めていく中で、私たちは「学校・家庭・地域がそれぞれの役割を明確にするとともに互いの連携を強化すること（横のつながり）」と「就学前から学校、そして社会へとつなぐ系統的なプログラムの作成を図ること（縦のつながり）」とをうまく合致させていくことが重要ではないかと考えた。

以上のことを踏まえ、本委員会においては6つの柱を設けて提言を行うこととした。

- ・倉吉の教育理念
- ・家庭教育
- ・幼児教育
- ・学校教育
- ・地域の教育力
- ・倉吉の教育実現のために

そして、それぞれの柱をより具現化した形で、別紙のとおり全13項目の提言とした。

倉吉市教育委員会においては、これを今後の教育施策に活かしていただくのはもちろんのこと、学校教育の方向性をより具体的に協議していく中で役立てていただくことを提言するものである。

平成22年 3月25日

## 提 言

### 6 倉吉の教育実現のために

- (12)子どもたちが望ましい成長をするための学校・学級の適正な規模についての検討を行うこと。  
(13)校区のあり方について検討を行うこと。

- 切磋琢磨するのに適した集団（学習、遊び、スポーツ）が20人から30人程度であることの検証を行う
- 地域に根ざす学校づくりに取り組む
- 校区の弾力的な運用、学校選択制のあり方について検討する

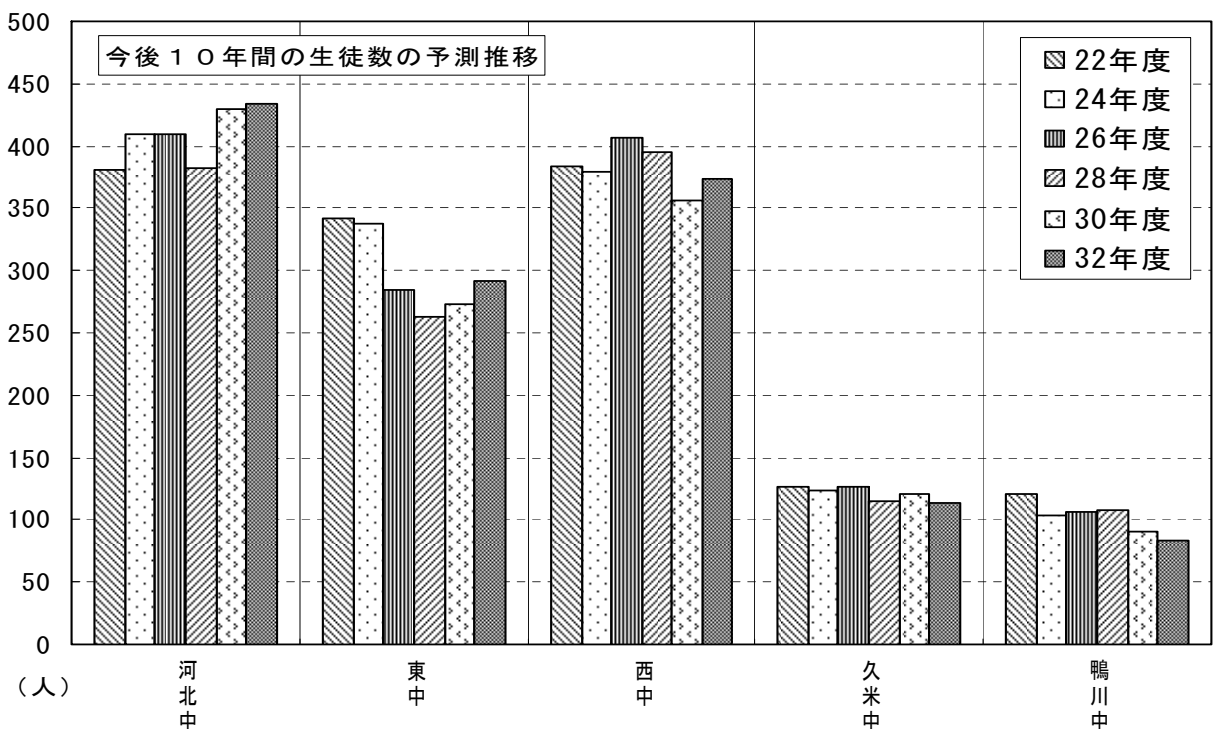
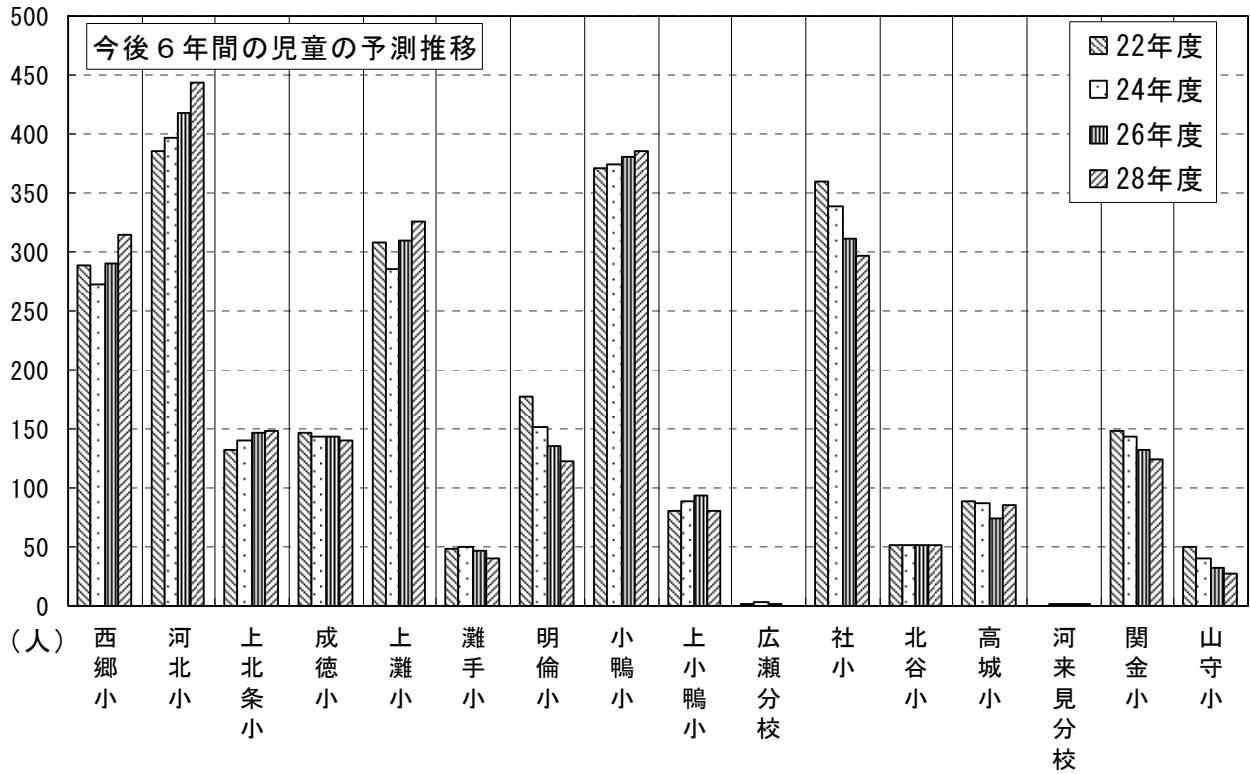
#### [委員会における意見]

- ・子どもがどんどん減って行事ができない学校もある。ある小学校では3人の学年もあった。お年寄りや地域の学校を残してほしいという願いをもっておられるが、若い保護者の中には多人数の学校で学ばせたいという意見もあると聞いた。少人数でよいところもよくないところもある。本市においても、そういう方向も考えてほしい。
- ・集団で切磋琢磨する力も落ちてきている。少人数では他人との関わりが薄い。子どもの数が減っている状況で、学校で今まで取り組んでいた事が難しく、効果を発揮できなくなってきている。
- ・一学級に20～30人程度、欲をいえば各学年複数学級ある学校の姿が、子どもの育ちの面から考えると良いのかなとも思うが。
- ・クラスだけでなく、地域のスポーツ、スポ少などでも人数が集まらない問題もある。他の校区に混ざるなども、家庭の支援が必要。
- ・部活動の関係で行かなければならない中学校以外の学校に進みたいという要望が増えてきているとの話も聞く。地域を大事にする子どもを育てる観点からみると校区という考えは必要に違いないが、弾力的な運用も考えざるを得ない状況もあるのでは。
- ・学校の適正規模を検討した上で、その効果が本当にあるのかどうかの検証を。
- ・この問題を考えていく上で、倉吉全体の状況がわかるような資料を提示してもらった上で協議ができれば良いと思う。
- ・倉吉は中部地区の中核をなす。他町との連携を考えてみる必要もあるのでは。
- ・小規模校の利点、課題は何なのかを検証した上で次のことを考えていくべき。
- ・集団規模で教育効果がどのように変わるのかの検証をしてほしい。そこがスタート。これは教育行政がやっていくべきことだ。
- ・何かを現在と変えていこうとするのなら、学校やPTA、地域等への相談は早めにしていくことが大切だと思う。
- ・小学校では25人くらいが良い。学年1クラスでは不十分。2クラスはほしい。



### ○ 児童・生徒数の推移

本市の今後の児童生徒数を現在の住民登録を基に予測すると、小中学校ともに全体として減少する傾向にあります。増加が見込まれる学校は少数であり、大多数の学校で減少します。そのため、今後適正な学級・学校の規模、校区のあり方についての検討が必要となっています。



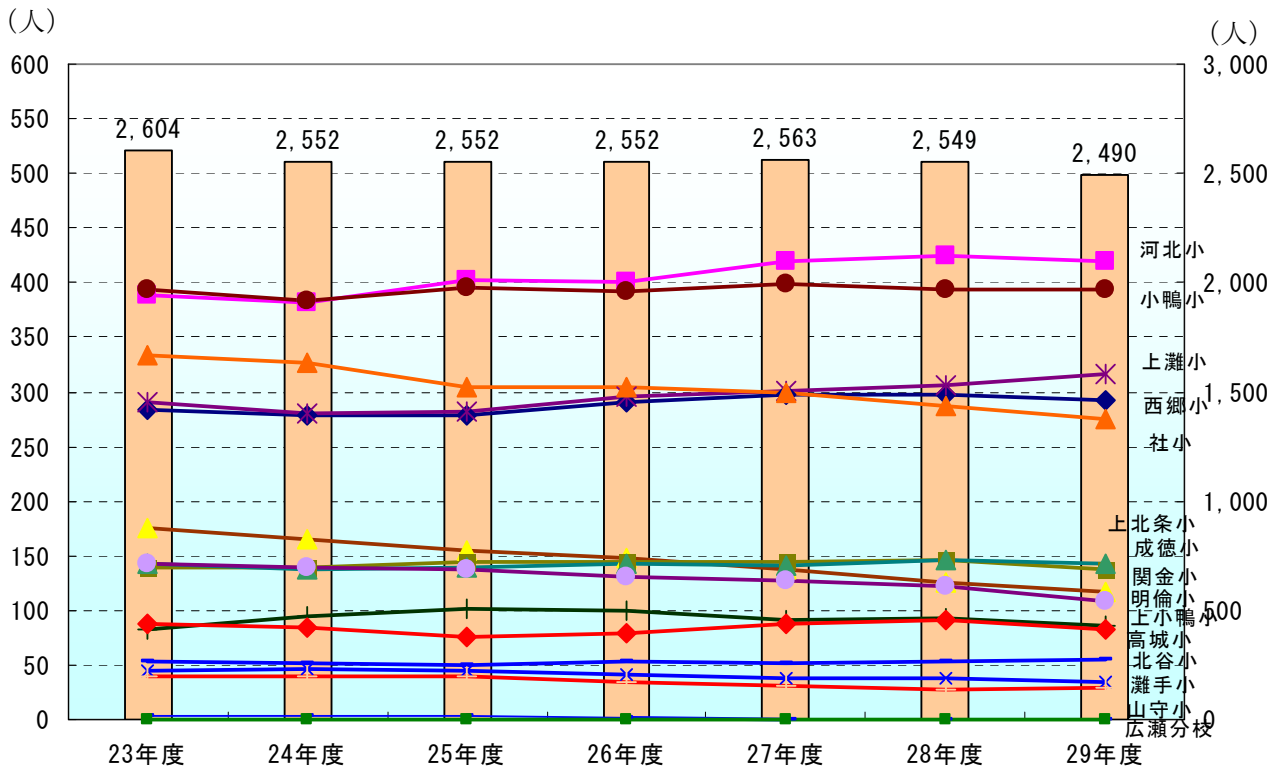
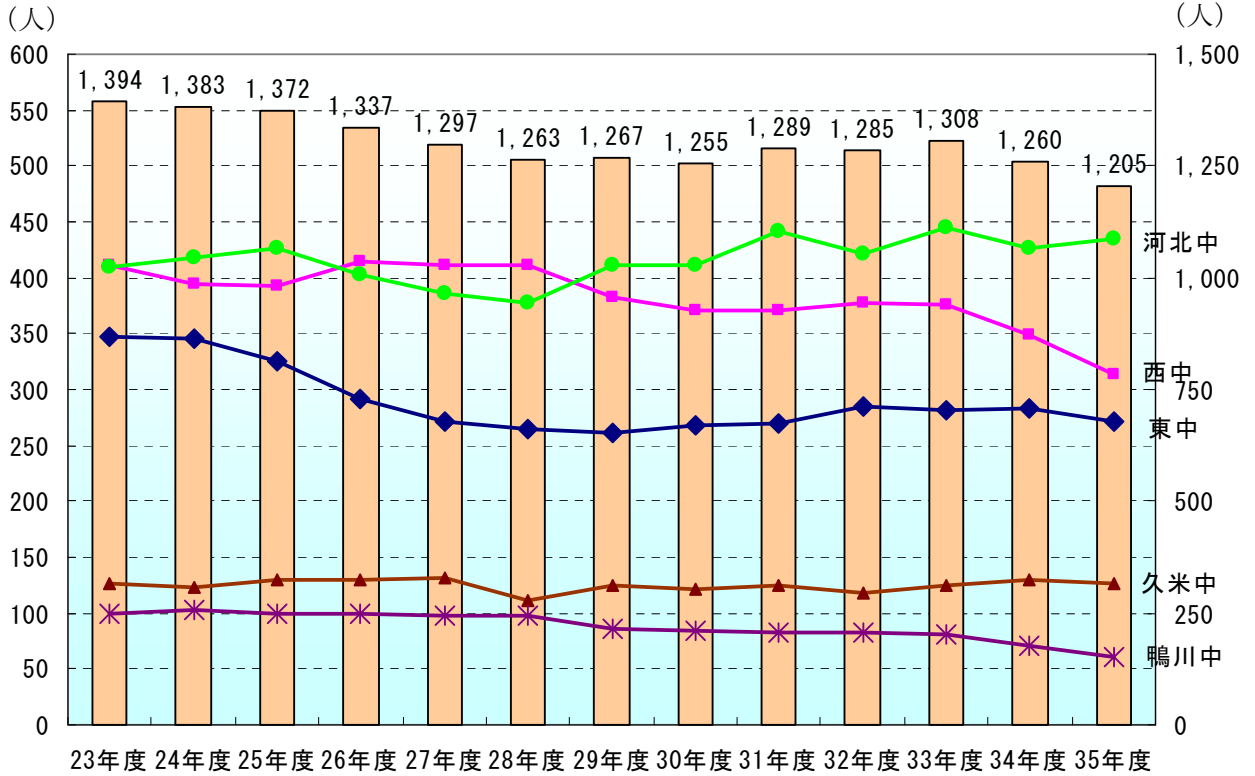
# 今後の児童・生徒数の推移

※人数は平成 23 年 3 月末の倉吉市人口集計表を基にしているため、実際の児童生徒数とは一致しないことがある。

## 1 今後の倉吉市の児童・生徒数の推移

倉吉市の今後の児童生徒数を現在の住民登録を基に予測すると、小学校・中学校とも減少する傾向にある。

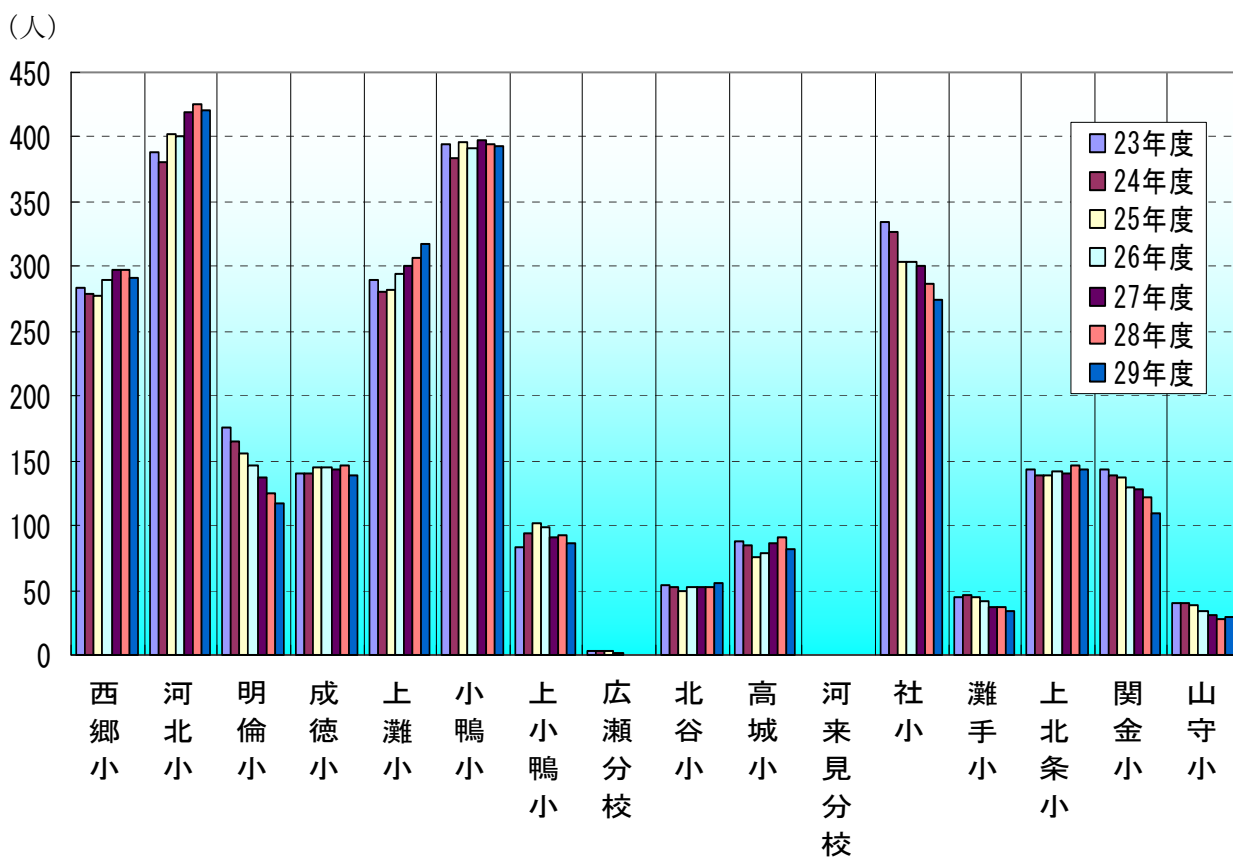
しかしながら、各校区単位でみると、増加する校区と減少する校区がある。



2 今後の学校別の児童数の推移（平成23年度～29年度）

平成23年3月末現在

学校名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
西郷小	283	279	278	290	297	298	292
河北小	388	381	402	400	419	425	420
明倫小	176	165	155	147	137	125	117
成徳小	140	140	145	145	144	146	138
上灘小	290	280	282	295	301	306	317
小鴨小	394	383	396	392	398	394	393
上小鴨小	83	94	102	99	91	92	86
広瀬分校	3	3	3	1	0	0	0
北谷小	54	52	50	53	52	53	55
高城小	88	85	75	79	87	91	82
河来見分校	0	0	0	0	0	0	0
社小	334	326	304	304	300	287	275
灘手小	45	47	45	41	37	37	34
上北条小	143	138	139	142	141	146	143
関金小	143	139	137	130	128	122	109
山守小	40	40	39	34	31	27	29
小学校合計	2,604	2,552	2,552	2,552	2,563	2,549	2,490



(1) 減少が見込まれる小学校

・明倫小学校	176名	→	117名	-59名	(-33.5%)
・山守小学校	40名	→	29名	-11名	(-27.5%)
・灘手小学校	45名	→	34名	-11名	(-24.4%)
・関金小学校	143名	→	109名	-34名	(-23.8%)
・社小学校	334名	→	275名	-59名	(-17.7%)
・高城小学校	88名	→	82名	-6名	(-6.8%)

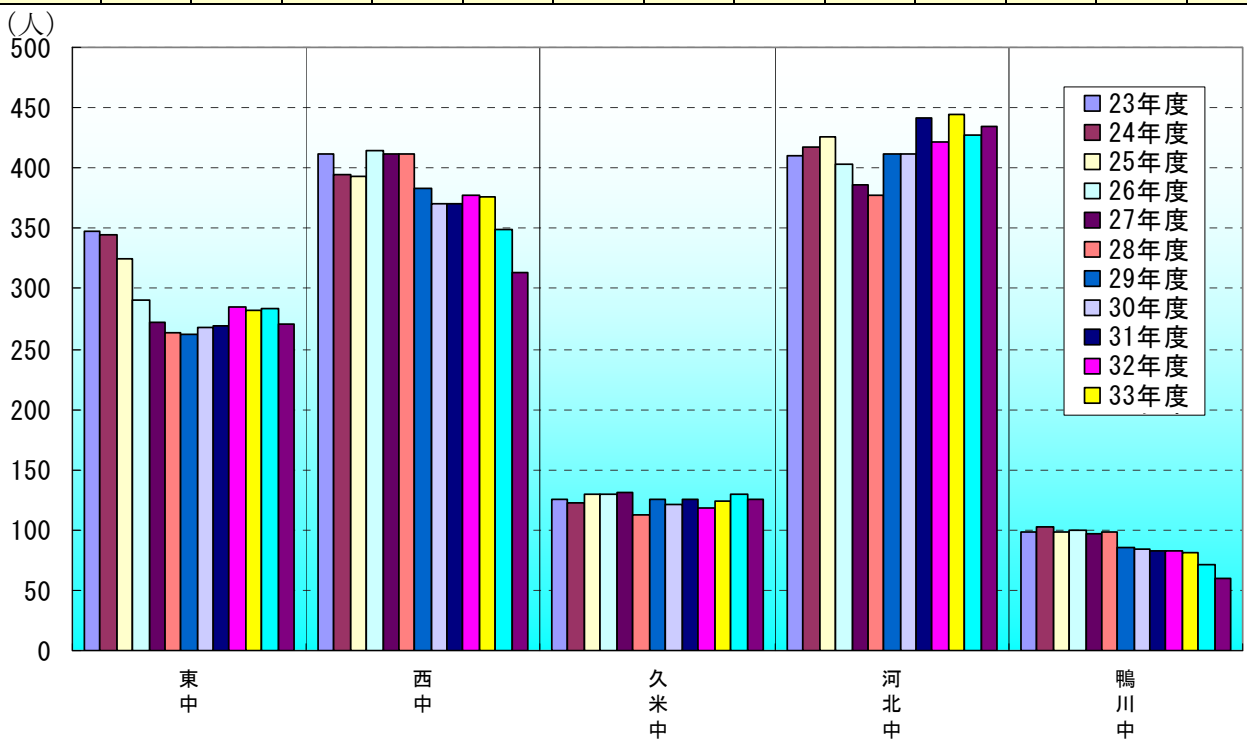
(2) 増加が見込まれる小学校

・上灘小学校	290名	→	317名	+27名	(+9.3%)
・河北小学校	388名	→	420名	+32名	(+8.2%)

3 今後の学校別の生徒数の推移 (平成22年度～32年度)

平成23年3月末現在

学校名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
東中	348	345	325	291	272	264	262	268	269	285	282	283	271
西中	411	394	393	414	411	412	383	370	370	378	376	349	314
久米中	126	123	129	129	131	112	125	121	125	118	124	130	126
河北中	410	418	426	403	386	377	411	412	442	421	445	427	434
鴨川中	99	103	99	100	97	98	86	84	83	83	81	71	60
中学校合計	1,394	1,383	1,372	1,337	1,297	1,263	1,267	1,255	1,289	1,285	1,308	1,260	1,205



(1) 減少が見込まれる中学校

・鴨川中学校	99名	→	60名	-39名	(-39.4%)
・西中学校	411名	→	314名	-97名	(-23.6%)
・東中学校	348名	→	271名	-77名	(-22.1%)

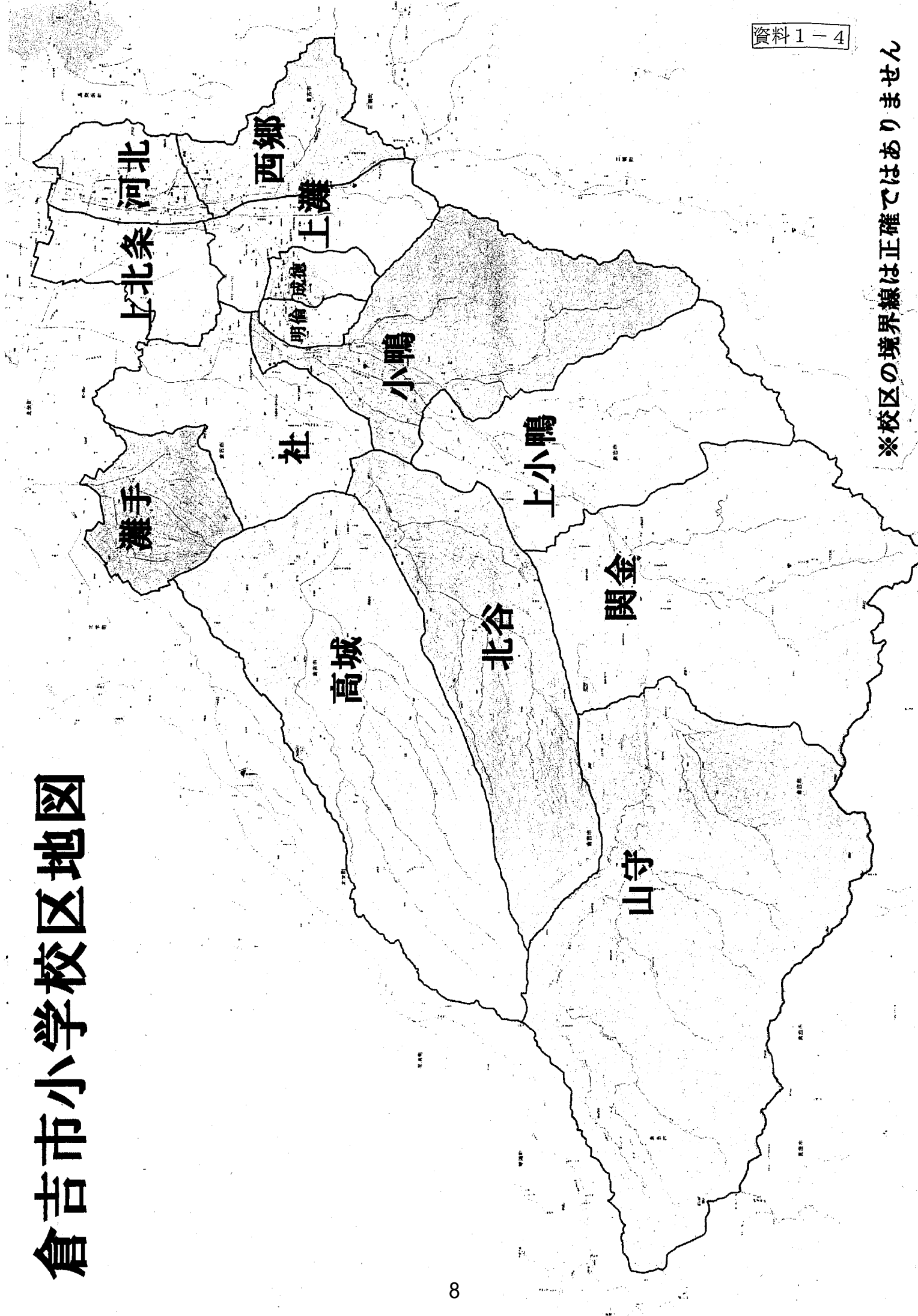
(2) 増加が見込まれる中学校

・河北中学校	410名	→	434名	+24名	(+5.9%)
--------	------	---	------	------	---------



# 倉吉市小学校区地図

資料 1-4



※校区の境界線は正確ではありません

## 平成23年度学校教育審議会について

### 審議会スケジュール

回	月 日	内 容
第1回	5月16日	・ 現状について ・ 審議の進め方について
第2回	月	・
第3回	月	・
第4回	月	

※今後の審議の経過を踏まえ、さらにスケジュールは検討していく。